Vol.3_2025.7

両国まちあるき瓦版 参

～ぐるり、めぐり、ごくり、きらり、びっくり、やはり、りょうごく～

★東京の夏の風物詩、隅田川花火大会！（7/26）

両国のみならず、東京を代表する夏の風物詩、隅田川花火大会が今年も開催されます。そこで、この花火大会について、江戸時代からの歴史を中心に紹介させていただきます。（歴史については、諸説あります…。また、今年の開催の内容などについては、公式ホームページを参照ください。）

1_観賞用花火の起源

戦国時代末期に、中国人がのちの仙台藩主・伊達政宗に観賞用として花火を見せたことが始まり。そして、その技術を日本人が受容し、定着・発展させていった。

１５８９年

2_隅田川での打上げ

江戸幕府にも大きな影響を持つ僧・天海が浅草寺に来た際に、船上でもてなしたのが隅田川での最初の花火。幕府は、市中での花火を禁止・制限したが、隅田川の船上に限って容認した。

１６２８年

3_両国川開大花火の創始

8代将軍吉宗は、前年の大飢饉と悪病退散を願って、川開きに花火大会を催したものが両国川開大花火の始まりとされ、以後、隅田川沿いの水茶屋や料亭、船宿などが主催する花火が盛んになっていった。

１７３３年

4_花火師鍵屋の台頭

日本橋横山町の花火師鍵屋が線香花火の製造に成功し、小型から仕掛けからくりのある大型のものへと開発が進んでいった。

１７５４年

5_玉屋の独立と全盛

鍵屋6代目の時に、使用人だった清吉が別家して、両国吉川町（中央区側）に玉屋の看板を掲げて独立。以降、両国川開きの花火は、鍵屋と玉屋2者の腕比べになった。

１８０Ｘ年

6_玉屋の断絶

玉屋は、火事を起こし所払いとなって断絶した。鍵屋の独り舞台になっても、はやし声は相変わらず“かぎやー・たまやー”であり、打上げ花火には欠かせないものになった。

１８４３年

7_花火の更なる進化

やがて、夜空にまん丸く開く花火が開発され、色づけも工夫できるようになった。いずれも鍵屋11代目の苦心作だった。

１８７Ｘ年

8_２か所開催が定着

明治時代に入り、花火大会を顧客として支えていた武士が東京からいなくなると少しずつ衰退に向かう。一方で打上げ場所は、両国橋の上流・下流の2か所で行われるようになった。

１８８７年

9_両国橋欄干崩落事故

花火見物で橋を埋め尽くした群衆の重みで欄干が崩落して多くの犠牲者を出した。他方、この頃から趣向をこらした仕掛け花火が可能となり、評判を呼んだ。

１８９７年

10_戦争による中断

昭和期の戦争に突入し、花火大会は、しばし中断。戦後もGHQによる火薬規制が原因で再開できずにいた。

１９３８年

11_戦後の花火大会復活

“両国花火組合”と“全国花火コンクール”という2つの花火大会として復活。のちに同時開催となった。

１９４８年

12_戦後の中断

交通事情の悪化、建物の密集化、隅田川の汚染などを理由に、開催が中断。

１９６２年

13_そして再開

諸々の社会問題の解決に向けた進展や地域の篤い想いを受け“隅田川花火大会”として17年ぶりに復活。以降、場所を上流に移しての開催となる。

１９７８年

14_大震災からの復興祈念

３月に発生した東日本大震災の影響で、各地の花火大会が中止になるなか、犠牲者への慰霊と早期復興の願いを込めて開催。被災者の招待や、復興祈念花火も打上げられた。

２０１１年

15_感染症拡大による中止

新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、本年から3年続けて開催が中止に。

２０２０年

16_コロナ明けの開催

感染症法上での位置付けが“5類”への移行したことを受け、イベント規制が撤廃されることとなり、4年ぶりの開催が実現。

２０２３年

17_もちろん今年も開催！

“第48回隅田川花火大会”は、7月26日に開催予定！

２０２５年

★シン・明神下神田川支店！

隅田川のたもとに店を構える大正7年（1918年）創業の鰻料理店で、文化2年（1805年）創業の本店（千代田区外神田）から唯一、暖簾分けを許された由緒正しき“支店”です。

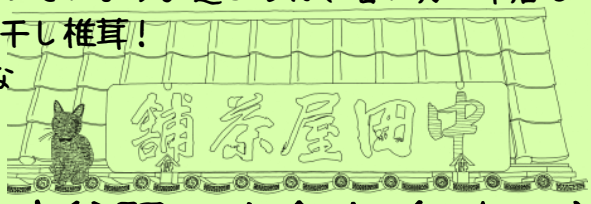
注文が入ってから活きた鰻に包丁を入れ、創業時に本店から受け継ぎアレンジを加えた秘伝の辛口タレに漬けて焼き上げます。炊きたてのご飯とのマリアージュをご堪能ください。事前に予約すれば、すっぽん料理もご堪能いただけます。店舗は建替えでモダンになりましたが、その味は永久に不滅です。

（明神下神田川支店　墨田区両国1-9-1）

★専門店ならではの品揃えです！

安政元年（1854年）創業、五代にわたりお茶を販売している本所二之橋際の日本茶の老舗です。こちらのお店も建て替えが終わりました。鹿児島や静岡産の新茶をはじめ、“各種フルーツ味の冷茶”や“相撲シリーズ”などこだわりのある商品を取り扱っています。近ごろは、若い方の来店も増えてきているそう。お茶のほかに、珈琲や茶器、そして干し椎茸！

ネット通販も行っていますが、まずは店舗で、この贅沢なラインナップからご吟味ください。ほぼ毎日更新のブログも、ご一読あれ。（中田屋茶舗　墨田区両国4-1-12）



★今年もやります盆踊り大会！（8/2,3）

今年も、8月2日（土）、3日（日）に両国国技館駅前大通りで両国二丁目主催“夏祭り盆踊り大会”が催されます。例年どおり“夏祭り盆踊り大会”と“高円寺阿波踊り”の二本立てとなっており、どなたでもご参加いただけます。当日は、さまざまな屋台も出店します。夏を感じながら、踊って食べて、ひと夏の思い出にしてみてはいかがでしょう。（盆踊りは、両日とも19:00から21:00まで（花火は20:50頃から）、阿波踊りは、3日の15:30から17:30に開催）

★蔵前橋も光ってます！

蔵前橋は、関東大震災後の震災復興計画によって、昭和2年（1927年）に完成した上路式三連のアーチ橋です。前回ご紹介した両国橋と同様に夜間はライトアップしています。（日没15分後から23時まで。）“蔵前”とは、江戸時代に幕府の御米蔵があったところで、当時は橋の代わりに“富士見の渡し”が両岸を連絡していました。照明演出のコンセプトは、この場所の歴史にちなみ“稲穂”をイメージしたもので、季節や曜日によって異なる演出が愉しめます。

☆紙面で紹介した具体的な場所などについては、お得な特典付“両国にぎわいMAP”を参照してください。印刷したMAPは、両国観光案内所などで配布しています。

☆墨田区観光協会では、両国をはじめとする“本物が生きる街すみだ”について、地元ガイドによる“まち歩きガイドツアー”を実施しています。

あなたのアイデアが展示されるかも？
小中高生向け“わたしのえどはく”展覧会アイデアコンクール実施中！

エドハク
リニューアルオープンまで、
あと、**8か月**くらい

■両国まちあるき瓦版_其の参（Vol.3_2025.7）
■発行・問合せ：墨田区産業観光部観光課
KANKOU@city.sumida.lg.jp / 03-5608-6500
■協力：墨田区観光協会/両国協力会/墨田区銘品名店会

☆その他の両国まちあるき情報やバックナンバーなどは、こちらに掲載しています↓

ひと、つながる。墨田区